

可多加比能可波能瀨伎欲久由久美豆能多由流許登奈久安里我欲比見牟

四月二十七日大伴宿禰家持作之

敬和立山賦一首并二絕

阿佐比左之曾我比爾見由流可無奈我良彌奈爾於婆勢流之良久母能知邊乎於之和氣安麻曾
理多可吉多知夜麻布由奈都登和久許等母奈久之路多倍爾遊吉波布里於吉底伊爾之邊遊阿里
吉仁家禮婆許其志可毛伊波能可牟佐備多末伎波流伊久代經爾家牟多知底爲底見禮登毛安夜
之彌禰太可美多爾乎布可美等於知多藝都吉欲伎可敷知爾安佐左良受綺利多知和多利由布佐
禮婆久毛爲多奈毗吉久毛爲奈須已許呂毛之努爾多都奇理能於毛須比具佐受由久美豆乃於等
母佐夜氣久與呂豆余爾伊比都藝由可牟加波之多要受波

多知夜麻爾布里於家流由伎能等許奈都爾氣受底知多流波可無奈我良等曾
於知多藝都可多加比我波能多延奴期等伊麻見流比等母夜麻受可欲波牟

右掾大伴宿禰池主和之四月廿八日

越後國苗場山

〔北越雪譜二篇四〕苗場山

苗場山は越後第一の高山なり魚沼郡にあり登り二里といふ、絶頂に天然の苗田あり、依て昔より山の名に呼なり、峻岳の巔に苗田ある事甚奇なり、余其奇跡を尋んとおもふ事年ありしに、文化八年七月偶おもひたちて、友人四人、幡、齋、櫛、扇、從僕等に食類其外用意の物をもたせ、同月五日未明にたちいで、其日は三ツ候といふ驛に宿り、次日暁を侵して此山の神職にいたり、おのく祓をなし、案内者を傭ふ、案内は白衣に幣を捧げて先にす、む、清津川を涉り、やがて麓にいたれり、嶺道を踏、嶮路に登るに、掬樹森列して日を遮り、山篠生ひ茂りて徑を塞ぐ、枯たる老樹折れて、路に横りたるを踰るは、臥龍を踏がごとし、一條の溪河を涉り、猶登る事半里許、右に折れてす、み、左